

# 県民のあゆみ



山形県広報誌  
令和4年11月号

県民のあゆみ

11  
No.630

奇数月1日発行 編集発行◎山形県広報誌推進課  
〒990-8570 山形市松波二丁目8番1号 ☎023-650-2534

表紙題字 | 山形県知事 吉村美栄子  
県ホームページURL https://www.pref.yamagata.jp/



## どうなってるの!?

### やまがたけん 山形県ドクターヘリ

2012年から山形県での運航をスタートしたドクターヘリ。  
コンパクトな機体の中はどうなっているの?

患者さんの命を救え!  
医師と看護師を乗せて現場へ急行。

時速200キロメートルで空を駆け抜け、全国の救急医療の現場で活躍するドクターヘリ。山形県では県立中央病院を基地として、県内700箇所以上のランデブーポイント(ドクターヘリと救急車の合流地点)を使うことで、山形県全域を活動範囲にしています。

出動は、年間250回ほどで、悪天候以外の日ほぼ毎日のように出動し、多い日には4回以上出動することもあるそう。患者さんの搬送を目的とした救急車との大きな違いは、救急が専門の医師と看護師がヘリに乗って現場に向かい、その場で治療を行うこと。ヘリには治療に必要な医療器具や薬品などが積んであります。機内は狭いうえ、プロペラの大きな音や機体の揺れなどで、治療が難しい環境です。そのため、ドクターヘリが救急車と合流すると、医師と看護師は救急車内で患者さんに必要な治療を行い、その後ヘリに患者さん乗せて速やかに病院まで搬送しています。



これが山形県のドクターヘリ!

スペースを効率的に使って患者さんの治療に努めます  
※訓練中の写真です



山形県立中央病院 救急科 医師/フライトドクター  
つじもと ゆうた  
辻本 雄太さん

ドクターヘリには、私たち医療関係者と運航会社だけではなく、消防、行政、ランデブーポイントの提供者など、多くの人たちが関わっています。患者さんの突発的なけがや病気に対応できるように、いろいろな人たちの協力があることを知ってほしいです。



ヘリの後ろは大きく開く!

ドクターヘリの後ろにある180度開いた大きな扉から、患者さん乗せたストレッチャーを出し入れます。



ドクターヘリの定員は何名?

山形県のドクターヘリの定員は7人。医師と看護師、パイロット、整備士のほか患者さんと家族が乗ることができます。



自動操縦も使用しながら安全に運航!

ヘリには、パイロットを補助する自動操縦装置が付いています。パイロットは、飛行ルートを確認しているか、異常はないかを確認し、必要があれば手動に切り替え操縦します。



運航を管理するのはCS (コミュニケーションスペシャリスト)!

出動要請を受けるのは中央病院のCSルームの職員たち。現場に近いランデブーポイントや、出動できる天候状態なのかを常に確認し、パイロットにアドバイスします。



### 今月の表紙

「すごいな! 山形わくわく体験モデル事業」でハンカチの紅花染めを体験する「認定子ども園 杉の子」の園児の皆さん。ハンカチの模様になる「絞り」を作って、紅花の染料に浸すと鮮やかな紅色に。世界に一つだけのハンカチ作りを楽しみました。(撮影場所: 河北町紅花資料館)

- 2 | 県民の皆さまへ 新型コロナウイルス感染症関連情報
- 4 | 特集 「子育てするなら山形県」の実現に向けて!
- 8 | 奏であう人 先人が伝えた技を次代へとつなぐ
- 16 | 潜入レポート! 山形県ドクターヘリ